



大改錦重日之新聞紙  
号五

神田豊島町二百水村亀吉と云愚もの  
 此やう辻君をひやくお毎夜く佐久間河岸  
 へ出ろて兎角辻君の邪へをまらるら露の  
 流しの泥水へ造らる亀の困らるえ銭を  
 まし連て去るる手の内を持てくるる病  
 あるが終ない辻君も強うあり明治八年四月  
 七日の晩相ららば 来るかりし  
 れどそのま置 ちと辻君が  
 寄てふく袋が  
 さらされ上お鍋炭  
 を顔へぬらさいやまや  
 外聞のわら事なりりりた  
 讀賣十八号不二笑せり

文華堂記



小改重  
日之新聞紙

文華堂  
印

九一